

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
【施策番号 27122：次世代風力発電技術研究開発（経済産業省）】
【施策番号 27123：洋上風力発電等技術研究開発（経済産業省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 30 日 17：00～17：30
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第三特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、本庶議員、奥村議員、白石議員、青木議員
外部専門家 4 名（うち若手 2 名）
- 4 説明者：経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部
新エネルギー対策課長 渡邊昇治

5 施策概要

27122:陸域における風力発電設備の導入を促進させことを目的に、我が国特有な気象・社会条件に適した風車技術研究開発として、複雑地形における風特性を把握すること等を目指す基礎・応用技術研究開発、落雷保護対策や風車音騒音等自然環境に対応した自然環境対応技術研究開発を推進する。

27123:洋上風力発電に係る実証研究を実施することにより、国内への導入の課題となっている気象・海象条件の把握、日本に適した洋上風車の開発を行うとともに、事業性向上の課題となっている大型化やポテンシャルの大きい浮体式に関する研究開発、実証を行っていくことで洋上風力発電の急速な導入拡大を推進する。

6 質疑応答模様

【相澤議員】

民間の研究開発力を側面的に支援して進展するという位置づけか。

【経済産業省】

落雷位置のマップの作成などはその通り。一方で、どこから騒音が出るか分かった後は企業努力であり、国の委託から民間に移していく。

【相澤議員】

国内需要・展開目標が出ているが、海外展開をするところで日本メーカーが苦しんでいる。国プロが各企業の海外展開に結果的に後押ししているのか。また、民間企業から見ても、国際競争力には不足と見ているのか。

【経済産業省】

発電の形態によって異なっている。

陸上については競争力がある。技術力と信頼性は高い。ここではサポート不要。

風況予測について多少のサポートはできる。

洋上については競争力が不足している。経験が無いので、本施策で経験してもらおう。後押しが必要。とくに洋上メンテナンスが難しい。

小型風車については海外に出て行っていない。一方で海外ではメーカー乱立している。しかし、動作音が小さくて、低速でも周り高速では止まるものであれば参入チャンスはある。マーケットはあると考えている。

【外部専門家】

洋上の大型化で革新的要素はどこか。

【経済産業省】

腐食防止（特に塩による）、メンテナンスフリー、台風に耐えるなど。耐雷性であれば洋上にも使える。

【外部専門家】

研究期間の後半や成果のイメージは。台風に耐えることを証明するのか。

【経済産業省】

発電コスト12円～17円/kWh程度を目指している。送電コストなど別途考えることはある。本研究で即終了ではなく、買取制度などの支援策が必要であると考えている。ヨーロッパでは20円/kWhで買い取っている。

【相澤議員】

新エネルギーと再生エネルギーについての経産省の定義は。

【経済産業省】

新エネルギー対策課という場合はこれからの新しいエネルギーという意味（広義）。

法律的に新エネルギーという文言を使用する場合は再生エネルギーとほぼ同値。

【内閣府】

漁業補償がネックになるはずだが、この点については考えているのか。

【経済産業省】

今回選んだところは解決済みである。

【外部専門家】

次世代と洋上の施策終了の3年間の差は何か意味があるのか。

【経済産業省】

洋上発電は日本では難しいと考えていたのでスタート・期間が異なる。

次世代は早く成果が出ることを期待しており、海外企業が使ってくれてもいいと考えている。良い製品であれば、日本でも使えるので。

【外部専門家】

洋上についてターゲットは日本国内なのか。海外をターゲットにしているのか。

【経済産業省】

基本的にはマーケットが大きい海外である。ヨーロッパや東南アジアなどが対象。

【奥村議員】

日本でも是非導入を進めたい。

国内ではどこに設置しても規制や住民の抵抗などの壁が多い。住民への理解促進などの普及活動も取り組んでいるか。

【経済産業省】

今までは規制緩和を基本に考えていた。しかし、今後は環境アセスをしっかりとやっていく。アセスをした上でクリアしたものについて買取制度で後押しする。あまりに厳しい規制があれば緩和する。